

16歳が見た風景。そして世界へ。 安田菜津紀さん講演を前に…



安田菜津紀さん (システムブレーンHPより)



私の本棚より。図書館にも蔵書たくさんあり。



8月5日 朝日新聞「be on Saturday」掲載

教育委員会が主催する「信州つばさプロジェクト」にも本校からの複数の応募がありました。世界を知ること、「留学」もチャンスですね。そして安田さんの講演からも、何かを得る絶好のチャンスとなることを期待します

夏休みも後半。学校は、3年生が補習のための登校、そして文化部の代替わりをした「風景」が見られています。書道部は全国書道パフォーマンス大会において「全国3位」という嬉しい結果を残しました。プレッシャーの中、自分たちの描きたかった新しい世界を見事に表現し書の原点にかえり美しい姿を記録と記憶に残しました。また、先日の「全国高校総合文化祭かごしま総文」では、本校も参加した長野県放送部がみごと、県として「文部科学大臣賞(1位)」を受賞しました！大快挙です。運動部を含め3年生はここで日頃の部活動に区切りをつけ、培った力を次のシーンである進路に向け切り替える時期がきています。バトンタッチされた1, 2年生は、またあらたな「部活動」の景色をどんな色で彩るかもとても楽しみです。学校は夏休みが明けると「合唱コンクール」「銀河セミナー講演会」と文化行事が続きます。本年度の銀セミ講演会はフォトジャーナリストの安田菜津紀さんです。混沌としたこの社会情勢の中、今の蟻ヶ崎高校の皆さんにぜひつけてほしい「力」があります。「世の中で起こっている現実を自分ごととして感じ自分の問いの発信を世界に向けてほしい」という私の願いであり、つてをたどり、安田さんをお呼びするという夢が叶ったところです。安田さんの新刊を図書館の先生が購入してくださいました。そして、私が以前から皆さんに読んで欲しかったブックレットも各教室に配備していただいております。安田さんは16歳の時、NGO「国境なき子どもたち」が派遣する「友情のレポーター」としてカンボジアを訪れたことをきっかけに、写真で世界を伝える活動を始めます。お父様の死をきっかけに、【特に海外にも興味があったわけでもなかったが「あいまいな喪失感」を埋めたく心の準備もできていないまま無防備な状態で、ただ「違う環境」に身を置きたかったという身勝手な気持ちでこのプログラムに応募した】と綴っています。16歳の彼女が見たその風景はその後、自分の中の違和感という問いとの向き合いから、世界の言葉に耳を傾けて発信するという姿を生みだしていきます。皆さんと同じ年代に感じたこと、向き合うべき真実、世界で起こっている事実から目を背けない姿勢、そんな話を生で聴けることを楽しみにしましょう。